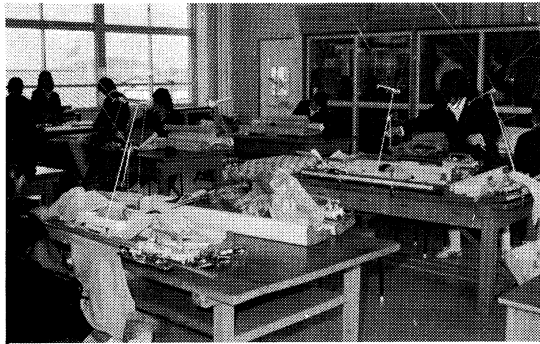


クリーニング科実習



被服科の実習

主な機械設備は、
小型旋盤二台、卓上ボール盤一台、
アークよう接機一台、ガスよう接機一
台、で、新設科のため今後設備は充実
していく計画であります。

専門科目と実習

専門科目として機械設計、機械工作
機械製図、機械実習等を指導しています。

現在は、一、二年生で専門科目にと
りこんでいますが三年生になると自動
車一般も指導を受けるようになります。
現在は生徒数も少なく実習等には恵ま
れている現状であります。

(3) クリーニング科

クリーニング科は昭和三十九年に設
置された科で、福島聾学校のほか、北

海道高等聾学校、横浜市立聾学校、福
井県立聾学校と、全国では数少ない職
業科であります。

具体的目標

「クリーニング学科を通して、よい
職業人、よい社会人としての資質の向
上に努める。」ことを目標として努力し
ています。

施設設備

本校舎と別むねで二百四十平方メート
ルのクリーニング室をもっております。

主な機械設備は

ドライクリーニング設備、ランドリ
ー設備、乾燥機、ズボンプレス機、人
体プレス機、腰プレス機、ワイシャツ
プレス機、バキュームプレス台、ボイ

ラー、卓上用ボイラー、ポケット掃除
器、包装器、自動スプレー、電・蒸気
アイロン等最新式の機械が設置されて
あらゆる繊維のクリーニングができ、
その技術指導をおこなっています。

専門科目と実習

専門科目として、クリーニング法規
公衆衛生、クリーニング理論、クリー
ニング機械装置、そしてクリーニング
実習をおこない、手仕上げから機械仕
上げと実習し、種々のクリーニング実
習を指導しています。

(4) 被服科

現在一年十名、二年九名、三年十一
名、計三十名の生徒が在籍し全員女子
であります。

具体的目標

実験・実習を重視し、将来家庭生活
職業生活を送る上で身につけておくべ
き知識・技術・態度及び習慣等を養う
ことを目標として努力しています。

主な設備は

被服Ⅰと被服Ⅱの二教室があり、洋
裁・和裁にわかれて教室を使用し、調
理学習には、八十五平方メートルの調
理実習室で実習指導を受けています。そ
の他染色用具一式、足踏・電動ミシン、ア
イロン、編物機等が設置されています。

専門科目と実習

家庭一般、被服Ⅰ、被服Ⅱ、食物Ⅰ
被服製作、手芸を履修しますが、学習
内容の編成については、各科とも同じ
ですが、生徒の障害の状態・能力・適
性・進路等を考慮して編成し、特に被

服の製作に重点をおいて、基礎的な知
識・技術がじゅうぶん身につくよう配
慮して指導しています。

(5) 普通科

昭和五十一年度より設置された科で
現在は一年生七名の在籍であります。

具体的目標

「社会人として必要な一般教養を身
につけ、将来において職業の選択の際
多方面に進むことが出来るような基礎
学力の修得をさせる。」ことを目標とし
て努力しており、教育課程は一般の普
通高校と変わりありませんが、養護・
訓練の時間が障害児教育諸学校の特色
であります。

今まで東京又は近県の聾学校の高等
部に進学していた中部卒業生を本県
で教育するわけで、今後の普通科の役
割は重く、期待がもてるものであります。

以上、幼稚部と高等部の概要をのべ
ましたが、聴覚に障害をもつ幼児・児
童生徒に適切な教育を施し、その能力
の伸長、人格の完成に努力しています。

七、福島県立盲学校療科概況

○ 創立

明治三十一年福島第一尋常高等小学
校長、宇田三郎、盲人鍼灸師、渋木重
庵、長沢正太郎、高橋金七の四氏によ
つて、全国第七番目の盲学校として創
立されました。

○ 位置 福島市森合町六番三十四号
校地面積 十六・八平方メートル